

令和4年度 青梅市立第三小学校 学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞

1. 児童の「生きる力」を育てる

2. 開かれ、信頼される学校づくり

3. 家庭・地域の教育力の活用

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
人権尊重を基盤とした、規律ある生活ができる学校	豊かな人間性と社会性を育てる	「あいさつの励行」と「いじめ防止」	「全力あいさつ」を合言葉に、全教職員の共通実践により全校的なあいさつ指導を行い、進んであいさつができる子に育てる。	C	挨拶を年間の重点目標とした結果、児童も85%が肯定的評価をした。保護者の肯定的評価は65%となっている。教員の取り組みは評価が高い。	学校の重点目標とする取り組みは継続して行い、保護者にも児童の姿を評価してもらえるように、取り組みを発信していく。	B A:1名 B:5名 C:2名 D:0名	校長が先頭に立って挨拶をしているので、自然と良い空気が出ている。校庭廊下での挨拶は元気な声が返ってくる。学校外の挨拶は不足。保護者評価が低い要因を調べる必要がある。	学校が一体になって共通実践を進める。地域との連携も進めることを視野に入れる。
			優しい言葉遣い、校内美化の徹底(かかとの揃った靴箱)、時間を守るなど、ていねいな立ち振る舞いを心がける。	C	丁寧な立ち居振る舞いは継続的に指導してきた結果、児童、教員の評価は90%を超えた。保護者評価は50%であり、学びの姿は学校外では出ていないと考えられる。	挨拶の指導と並行し、お互いを尊重する姿勢を具体化していく。優しい言葉遣いを身に付ける環境を整える。	B A:1名 B:5名 C:1名 D:0名	全体的に言葉遣いは良い。取り組んでいるのだと思うが、あまり感じない。家庭内でも丁寧に会話することが望まれる。	一日一日の積み重ねと粘り強い指導で、言語環境の改善を図る。家庭でも丁寧な立ち居振る舞いについて協働して指導できるようにしていく。
			「いじめは絶対に許さない」毅然とした態度で指導するとともに、年4回のいじめに関するアンケートの実施や、「学校いじめ対策委員会」の開催等により、いじめの未然防止、早期発見、即時対応に努める。	A	いじめアンケートの実施にとどまらず、各ケースを丁寧に精査し組織的対応をしたことで、児童・保護者・教員の肯定的評価はすべて90%以上である。	33名の児童が下位評価である。全ての児童が安心して学校生活を送るためには、アンケートに加えて教員のアンテナを高くしていくことも重要であるので、いじめに関する研修を引き続き計画的に行う。	A A:5名 B:3名 C:0名 D:0名	「いじめはだめ」のポスター作りなど積極的に取り組みしている。先生方はより努力をしている。いじめは永遠の課題。引き続き取り組んでほしい。	いじめの未然防止、早期発見、組織的対応は児童の安心できる学校生活には必須である。研修を行い、今後も児童の安心を保障していく。
学ぶ意欲を高め、生きて働く学力が身に付く学校	学習の基礎・基本の徹底と体力向上と健康増進の推進	基礎学力の定着と体力の向上	電子黒板やタブレット端末等のICT機器を活用した授業を推進する。また、習熟度別算数少数人数指導の推進や、放課後算数教室を開催し、基礎的な学力の定着を図る。	B	校内研究はICTを活用した学びを主題にした。教員のスキルは向上しており、授業での活用も進んでいる。児童・教員の肯定的評価は90%を超えている。	児童は活用できていると感じているのだが教員は学びを支える活用がもっと必要と評価している。引き続き研修を進めながらよりよい活用を組織的に進めていく。	A A:5名 B:4名 C:0名 D:0名	ICT機器は子供の方が早く慣れるので使いこなせている。教員も活用している。課題は教員のスキルアップ。基本的な学力はどうか。検証したい。	ICTの効果的な活用場面を研究によって探ってきている。知見をもとにさらに学力向上のための方策を探り進める。基本的学力の定着は日々の学習によって育てる。
			「分かる授業・考える授業」をめざし、教員が互いに授業を見合い見せ合い、切磋琢磨することで授業改善を進める。成長する児童の姿で保護者からの信頼を得る。	B	例年児童の学ぶ意欲を高める活動を行ってきたが、特に今年度は児童評価が高くなった(3年度同項目の児童A評価は32%→今年度A評価63%)。95%の児童が肯定的評価をしている。	児童にとってわかる授業は、学校生活の中で重要である。引き続き、児童の意欲を喚起する学習のあり方を探り、学ぶ喜びをもつことのできる授業をしている。	B A:2名 B:5名 C:2名 D:0名	わかる授業に一生懸命取り組んでいると思う。児童の評価が高いので、これからも頑張ってもらいたい。児童評価が上がっている要因の分析が必要。お任せするのみ、明るい表情の子供たちに期待する。	分かる授業、考える授業はこれからの学校には必要である。教えるから学ぶへの学習の転換を図るため教員も研修に努める。
			休み時間の外遊びを推奨し、日常的に体を動かす習慣を身につけさせる。また、体育授業の充実を図り、進んで運動する児童を育てる。	B	休み時間の外遊びは教員自らが外に出ることによって定着しつつある。教員の肯定的評価は100%である。児童はまだ意識は薄く、60%の肯定的評価にとどまっている。	教員が進んで外に出ることは効果的であるので継続する。学年学級を超えた交流も有効と考えられるので、企画・実施していく。	B A:2名 B:6名 C:0名 D:0名	教員と児童のコミュニケーションづくりに休み時間ごとに外に出るのには有効であるが、教員の体力の負担がないか心配である。外遊びをして体力をつけてほしい。児童はどうしてそう考えているか分析は必要。	外遊びを活性化するための一番の方策は時間と場所の保障なので、これからもその確保に努める。児童評価の低さの原因は不明だが、今後明らかにしていくとともに対応策を計画実行する。
地域や社会に開かれ、信頼される学校	家庭・地域の連携と情報発信	安全・安心な環境づくり	学校公開・授業参観の開催、年2回の学校評価の実施、毎月1回の学校便りやHPの更新により、学校情報をきめ細かく発信し、保護者や地域との連携を深める。	B	連携の在り方はHP、学校だより、学校評価等を通じて行っている。また、メール配信システムを活用して適宜情報を提供したことで90%の肯定的評価を得た。	必要な情報提供が続いていくとともに、必要な情報を精査する。また、一部情報の提供の遅れによる不安の声があるので、必要な情報をもれなく提供するよう組織的に対応する。	B A:3名 B:4名 C:1名 D:0名	授業でタブレットを子供が使うなど、学校公開を通じて時代の変化を感じた。コロナのメールなど積極的に発信してくれているので良いと思う。反面、学年単位でのお知らせは少ないと感じる。	コロナ対策の情報提供はできる範囲で行っている。児童の姿の公開は保護者評価にも直接結びつくものであるため、感染対策を進めつつ、公開していくようにする。
			セーフティ教室や交通安全教室・自転車講習を開催するとともに、PTA等による登校時の見守りや、校長のパトロールの実施等により、登下校時の交通事故や校外での犯罪被害の防止を図る。	A	校長によるパトロールは保護者にも好評である。校外での安全は定期的に指導しているため肯定的評価は三者とも90%を超えている。	登下校の安全、地域の安全は学校はもとより、地域・保護者・学校が一体となって進めていく必要がある。外部組織との連携をしながら安全な生活を保障していく。	A A:5名 B:2名 C:1名 D:0名	登下校安全は学校側の対応ができており評価できる。地域の協力での対応が不十分と思われる。自転車の乗り方についてもう少し指導が欲しい。大勢の子供たちの安全を見守っていただき感謝している。	月に1回の登下校の安全指導を継続して行うとともに、必要に応じて行うようにする。歩行、自転車の乗り方は学校での指導とともに、保護者への啓発と地域の見守りで指導できるようにしたい。
			子供家庭支援センターや立川児相等の外部機関との連携や校内委員会、特別支援教育コーディネータ、教育支援員、スクールカウンセラーの活用を図り、全ての児童が安心して充実した学習活動ができるようにする。	B	スクールカウンセラーや子ども家庭支援センターとの連携は進めていることは評価されている。しかしながら、一部子ども家庭支援センターとの連携を強化してほしいとの声もあった。	保護者は学校が諸機関と連携していることを知りながらもその具体的なことは知らないこともあって、啓発をするのと同時に、学校が課題を抱え込まずに連携を強化しながらよりよい児童の教育の場を作るようにする。	B A:2名 B:5名 C:1名 D:0名	地域で子供を育てることが大事。積極的になつていきたい。学校現場はとてよくできていると思う。外部機関との連携強化は教員の負担を少なくするためにも必要と考える。	関係諸機関との連携は適宜行っており、評価されているので継続していく。地域と連携した指導は学校だけではなく、PTA、支会とも連携できるとよい。